

瑞穂町図書館改修工事基本計画（案）

参考資料

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくる ワークショップの記録

令和 2 年（2020 年）3 月

瑞穂町教育委員会

目次

第1回＜基本編 1＞：「場としての図書館」「図書館でできること、やりたいこと」を考えよう.....	3
第2回＜基本編 2＞：「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考えよう....	10
第3回＜図書館運営・サービス編 1＞：瑞穂町の図書館の「テーマ配架」を考えよう.....	17

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ実施レポート

第1回＜基本編 1＞：「場としての図書館」「図書館でできること、やりたいこと」を考えよう

■日時：2019年9月7日（土）13:30～16:00（13:00 開場）

■開催場所：瑞穂町ふれあいセンター 大会議室2、大会議室3

■参加人数：33名

実施スケジュール

瑞穂町の図書館をつくる～図書館という体験をデザインしよう～

瑞穂町の図書館をみんなで考えつくるワークショップ：第1回＜基本編 1＞
「場としての図書館」「図書館でできること、やりたいこと」を考えよう

01 第1部 オリエンテーション：13:30 - 14:00

- 1) [全体] あいさつ・瑞穂町図書館のこれからの動き：町田館長（5分）
- 2) [全体] 図書館協議会メンバー紹介（会長あいさつ）：町田館長（9分）
- 3) [全体] ファシリテーター紹介：町田館長（1分）
- 4) [全体] ワークショップ・オリエンテーション：ファシリテーター（15分）

02 第2部 発見しよう、共有しよう：14:00 - 14:25

- 1) [チーム] チーム内自己紹介（5分）
- 2) [チーム] 瑞穂町図書館を歩いて観察しよう（20分）

<休憩（10分）>

03 第3部 創造しよう、整理しよう：14:35 - 15:30

- 1) [チーム] 「場としての図書館」「図書館でできること、やりたいこと」を考え、書き出してみよう（35分）
- 2) [チーム] 今日、発見創造したことを共有し、みんなでシートにまとめよう（20分）

04 第4部 発表：15:30 - 16:00

- 1) [全体] 発表（20分）
- 2) [全体] 感想：設計者、町田館長（10分）
- 3) [全体] 写真撮影

取り組んだテーマ

1

場としての図書館

a. 新しい図書館はどんな場であつたらいいでしょう？

b. それを実現するにはどんな課題があるでしょう？

c. また、みなさんはどんな協力ができますか？

2

図書館でできること
やりたいこと

a. 新しい図書館でどんなことができたらいいでしょう？

b. それができるようにするためにはどんな課題があるでしょう？

c. また、みなさんはどんな協力ができますか？

各班のまとめ

A 班

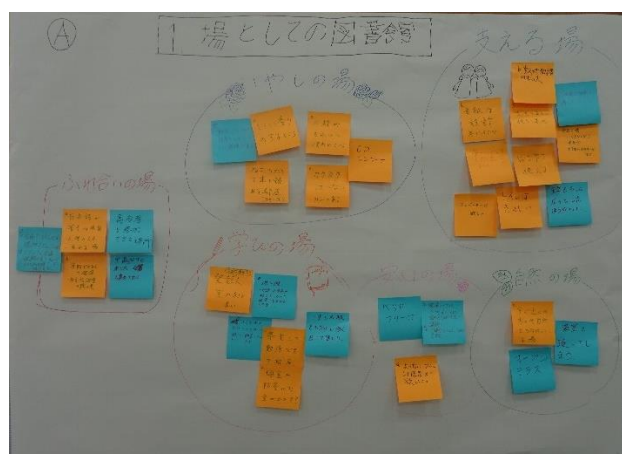
<場としての図書館／図書館でできること、やりたいこと>

- 「いやしの場」「ふれあいの場」など、場としての図書館への多様な期待が語られた。
- 「学びの場」については、自習室利用だけでなく、「学びの場」に「遊び」の要素を加えるなど、多様な学びの可能性について意見交換があった。
- 近隣の自然とのつながりや、温室（植物）に親しめるスペースなどを求める意見も見られた。
- 本の達人に出会えたり、同じ本について語り合えたり、本を通じた交流に関心が示された。
- 学齢に応じて、子どもたちの勉強をサポートできると、小学校高学年～中高生の利用があるのではないかと提案があった。
- 周辺環境と関連して、コーヒーの提供や飲食できるスペースへの希望もみられた。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



B 班

<場としての図書館／図書館でできること、やりたいこと>

- 個人で静かに利用する場だけでなく、サークルやグループでおしゃべりしながらの利用もできる場と両方の場が求められている。
- 子どもたちが勉強できて、それを支えるプログラム（読み聞かせや勉強会）も必要との意見も出た。
- 郷土資料だけでなく、イベント情報や行政情報などがわかり、町の外の人も訪れる場としての可能性も指摘された。
- Wifi や 5G へのアクセス、デジタルコンテンツなど、新しい ICT にふれたいとの希望も出た。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



C 班

<場としての図書館／図書館でできること、やりたいこと>

- おいしいコーヒーを飲みながら読書や会話ができる場という意見は共通するイメージとなっていた。
- 館内の面積を増やせなくても、テラスなどを設けることで、斜面や木々などの自然環境を活かした、居心地のよい空間にできるのではないかと具体的な案もあった。
- 本を書きたい人のための講座や、子育て世代の交流、読んだ本の感想を話し合えるなど、人の交流を促進するためのプログラムについての意見も見られた。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



D 班

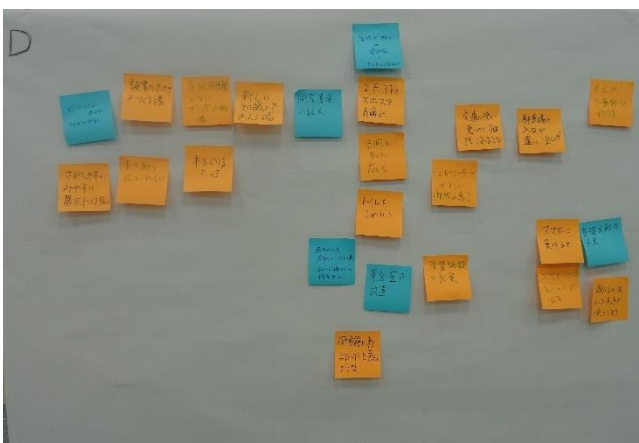
<場としての図書館／図書館でできること、やりたいこと>

- 図書館の基本は本にあるので、蔵書がしっかりしていて読みたい本が見つかることが大切で、そのために展示の工夫が必要という意見が出て、支持されていた。
- 一方で、調べものはスマートフォンに置き換えられているので、それに置き換えられない空間としての魅力として、多世代交流やグループ利用、イベントの開催などが提案された。
- 図書館 PR も必要との意見もあり、図書館のイメージを明るくする取組や、スマートフォンやインターネットでの情報発信などが具体的に挙げられた。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



E 班

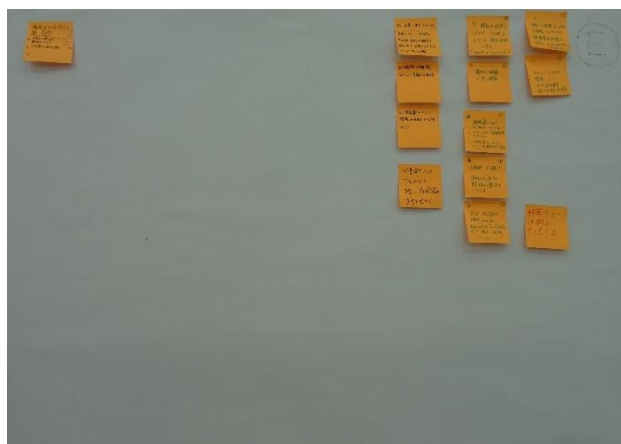
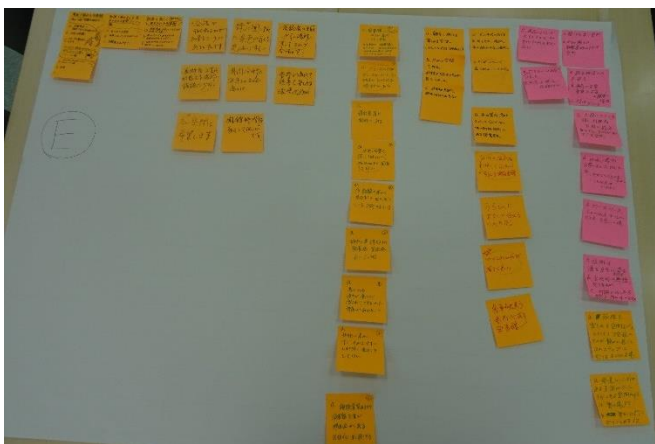
<場としての図書館／図書館でできること、やりたいこと>

- 豊かな自然環境と一体感のある図書館という場についていろいろな意見が出て、裏山でのホテルの観察やプラネタリウムの併設などのアイデアが出された。
- 多様な年代のさまざまな利用者に開かれた場として、子育て中の人や乳幼児をはじめ、誰でも気兼ねなく利用できる場所が求められていた。
- 居場所としての機能だけでなく、勉強のサポートや専門的な知識や地域資料の提供、おすすめ本の紹介等、図書館ならではの機能やサービスの提供も不可欠だと考えられている。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



<集合写真>



以上

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ実施レポート

第2回＜基本編 2＞：「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考えよう

■日時：2019年10月20日（日）13:30～16:00（13:00開場）

■開催場所：瑞穂町ふれあいセンター 大会議室2、大会議室3

■参加人数：43名

実施スケジュール

瑞穂町の図書館をつくる～図書館という体験をデザインしよう～

瑞穂町の図書館をみんなで考えつくるワークショップ：第2回＜基本編 2＞
「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考えよう

01 第1部 オリエンテーション：13:30 - 14:10

- 1) [全体] あいさつ・瑞穂町図書館のこれからの動き：町田館長（4分）
- 2) [全体] 図書館協議会メンバー紹介・会長あいさつ：町田館長（5分）
- 3) [全体] ファシリテーター紹介：町田館長（1分）
- 4) [全体] オリエンテーション・第1回の振り返り：ファシリテーター（15分）
- 5) [チーム] チーム内自己紹介（5分）
- 6) [チーム] 第1回のチーム内振り返り（10分）

02 第2部 発見しよう、共有しよう：14:10 - 15:25

- 1) [全体] 図書館の資料／ライブラリー（一部）紹介：古川司書（5分）
- 2) [チーム] 「図書館の本・資料・情報」「図書館と地域性、瑞穂町の日常」を考え、書き出してみよう（40分／20分+20分）
<休憩（10分）>
- 3) [チーム] 発見創造したことを共有し、みんなでシートにまとめよう（20分）

03 第3部 発表：15:25 - 16:00

- 1) [全体] 発表（25分）
- 2) [全体] 感想：設計者、町田館長（10分）
- 3) [全体] 写真撮影

取り組んだテーマ

3
図書館の
本・資料・情報

a. 新しい図書館にはどんな本があるといいでしょう？

b. 新しい図書館には本以外にはどんな資料があるといいでしょう？
例）電子書籍、CD、DVD、ビデオ、紙芝居、
デジタル化資料（デジタルアーカイブ）、インターネット資料など

c. 新しい図書館でどんな情報を知りたいでしょう？
例）暮らし、子育て、趣味、仕事、農業、学び、遊び、観光、健康、芸術など

4
図書館と地域性
瑞穂町の日常

a. 町民のみなさんが感じる瑞穂町らしさって何でしょう？

b. 瑞穂町らしい図書館って何でしょう？

c. 新しい図書館ができたならまちや地域はどう変わるでしょう？

**図書館整備段階だけでなく開館後も
つくりながら、使いながら考えていくテーマ**

各班のまとめ

A 班

<図書館の本・資料・情報>

- 図書館を利用しているみなさんの求めているものは今の図書館にないものであり、利用していない人は今の図書館にもあるような本や資料も挙げていた。
- 利用したことがない人にとって、図書館にどのような本、資料があるのかがわかるよいと思う。

<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 「町に映画館がないので活字だけでなく映像が見たい」といった声が<図書館の本・資料・情報>であつたが、これも地域固有の課題として検討の必要がある。
- 「交通の便の悪さ」という地域の課題をポジティブにとらえて歩くことで健康につなげる、といった発想の転換が参加者のみなさんから出てきたのは非常によかった。ワークショップの中でこういった発想を育てていけるとよいと思う。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



B 班

<図書館の本・資料・情報>

- 求める資料では瑞穂町に特化した地域資料について多く意見交換していた。
- 瑞穂町のお祭りや狭山丘陵、大瀧詠一氏等の地域資料を提供することで、町外の人からも瑞穂町に関心を持ってもらえるようにしたいという意見が多かった。

<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 地域性の中で、瑞穂中学校や瑞穂農芸高校との連携が挙げられていたが、具体的にどのようにしていきたいか、今後考えていくべき課題ができた。
- 土日開館している図書館が町のインフォメーションセンターとして、何か新たな発信ができるのではという提案もあった。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



C 班

<図書館の本・資料・情報>

- 地域資料（郷土資料、郷土料理、音楽）について、それらを展示することに関しての意見が多かった。
- 郷土料理の作りかたを教えてもらえたり、大瀧詠一氏に関する音楽が聴けたり、体験を通じて情報を得られることへの関心も感じられた。

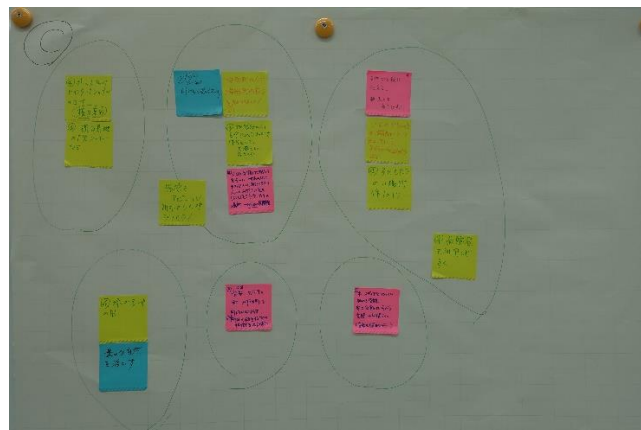
<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 町外の参加者から積極的に瑞穂町のいいところが聞けた（音楽、文学、散歩道、自然等）。同時に、それらの特徴と図書館とをどのように結び付け、発信していくかについては今後考えるべき課題かと思う。
- みずほ学を学んだ子どもたちは大人よりもみずほについて詳しい背景があるそうで、子どもから大人へ学びを伝えられたらよいのではとの意見もあった。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



D 班

<図書館の本・資料・情報>

- 求める資料としては、物語を中心に実用書等幅広く意見が出たほか、幼児用の「清潔」な本や、データベース（新聞系の有料 DB や音楽配信）の希望も出た。
- 「他の人のおススメの本」がほしいという意見に多くの人が同意していた。情報があふれるなか、具体的な本やジャンルよりも、どんな本が必要なのかという情報の重要性が浮かび上がった。

<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 自然に恵まれていることや、地場産業（畜産や農業やみずほブランド）が瑞穂町のよいところとしてあげられており、図書館でもそのよさを活かす取組（展示やイベント開催）が提案された。
- 瑞穂農芸高校名物のクッキーと狭山茶を図書館で提供することから始めてみてはどうかという具体的な提案が出たほか、近隣施設や地元企業との連携の提案もあり、身近なものの組み合わせで地域性や瑞穂町らしさが出せるのではないかと期待がふくらんだ。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



E 班

<図書館の本・資料・情報>

- 幼稚園・保育園児向けの本はかなりあるが、高齢者施設でのレクリエーション関連の本などを充実させてほしいという意見や、若い世代にも魅力のある CD (K-POP 含む) や DVD などをもっと増やしてほしいという意見があった。
- 参加者の中に村山大島紬や織物などに造詣が深い方が多く、村山大島紬の生地の見本を持参していただいた方のサンプルを見て、しおりやブックカバーにしてみてもいいという意見もあった。

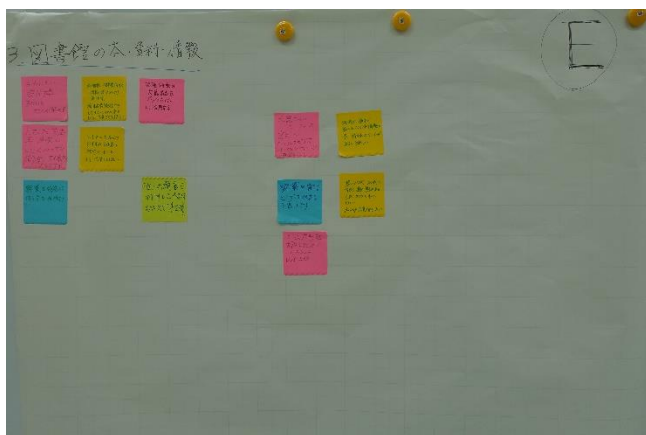
<図書館の地域性、瑞穂町の日常>

- 学校が近いので、中高生が利用しやすい閲覧室があると良いという意見や、瑞穂町は若い農業者が多いので、農業従事者向けの本や子どもが野菜などについて学べる本があるといいという意見があった。
- 駐車場が少ないことを逆手に取り、あえて箱根ヶ崎駅から図書館まで歩いていただくことで認知症予防にもなるし、商店街などを見ていただきたいという意見があった。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



<集合写真>



以上

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ実施レポート

第3回〈図書館運営・サービス編 1〉：瑞穂町の図書館の「テーマ配架」を考えよう

■日時：2019年11月23日（祝）13:30～16:00（13:00開場）

■開催場所：瑞穂町ふれあいセンター 大会議室2、大会議室3

■参加人数：30名

実施スケジュール

瑞穂町の図書館をつくる～図書館という体験をデザインしよう～
瑞穂町の図書館をみんなで考えつくるワークショップ：第3回〈図書館運営・サービス編 1〉
瑞穂町の図書館の「テーマ配架」を考えよう

01 第1部 オリエンテーション：13:30 - 14:15

- 1) [全体] あいさつ・瑞穂町図書館整備の状況についての説明
：小峰教育部長、町田館長（15分）
- 2) [全体] ファシリテーター紹介：町田館長（1分）
- 3) [全体] オリエンテーション・第2回の振り返り：ファシリテーター（18分）
- 4) [チーム] チーム内自己紹介・第2回のチーム内振り返り（12分）

02 第2部 発見しよう、共有しよう：14:15 - 15:25

- 1) [全体] 瑞穂町図書館からの提案：古川司書、西村司書（約7分×2=15分）
- 2) [チーム] 瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう（40分）
- どんなテーマがあるといいのだろう
- それぞれのテーマにはどんな本や資料があるといいのだろう
<休憩（10分）>
- 3) [チーム] どんなテーマか、どんな本や資料か、シートにまとめよう（15分）

03 第3部 発表：15:25 - 16:00

- 1) [全体] 発表（25分）
- 2) [全体] 感想：設計者、町田館長（10分）
- 3) [全体] 写真撮影

取り組んだテーマ

みんなで瑞穂町らしい書架テーマを考えましょう！

5

瑞穂町図書館の
書架のテーマを考えよう
(各グループ×5つ)

6

それぞれのテーマには
どんな本や資料が
あるといいか考えよう

各班のまとめ

A 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- 前回協議した内容からの連続性を意識しながら書架をイメージしていったので、これまでの抽象的な議論から（少しずつではあるが）具体的なイメージの共有へと進んだ感があった。
- テーマを各々設定するだけではなく、テーマをつなげることの大切さに気づいたのはよかった。
- 「出会いと別れ」「大人になるまで」「人生仲よく」「いのち」「みずほ学」というテーマが、それぞれどういった意味や事柄を含むのかをみんなできちんと考え議論していたのが印象的だった。
- 「出会いと別れ」は長く続くような書架でという話も出ていたので、書架のテーマを書架構成、空間デザインに活かしていきたい。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



B 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- 大テーマを「図書の国-ホンモノを求めて図書館へ行こうツアー-」として、こどもから大人までみんなが行きたくなるような6つの小さな国（テーマ）を考えられて良かった。
- それぞれのテーマ同士のつながりもイメージしながら検討していた。
- 第2回ワークショップの課題となった地域との連携の中で「農芸の国」を挙げ、学科に順じたコーナーや高校生が図書館に関われる仕組みを提案していた。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



C 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- 「みんなの本棚」というテーマで、借りる側も一緒に図書館をつくっていくことへの可能性がみえた。
- 瑞穂町については「瑞穂からの」と「瑞穂（学）」という対比した二つの大きなテーマが出され、瑞穂というテーマでも、瑞穂町民から見た外側の世界と内側の世界の二面性が発見された。
- テーマごとの建築的な配置についても考えられた。「子供」と「共に生きる」は近くにあり、入口には「みんなの本棚」がある。書架のレイアウトにも関係してきそうで、もっと深めて話し合っていきたいと感じた。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



D 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- テーマ配架のよさを認めつつ、テーマ配架の課題や難しさについての深い議論も行われた点がよかったのではないかな。
- 「発達障害」など、現在の書架では離れているテーマを具体的にあげて議論が行われたので、テーマ配架のよさが参加者のあいだで共有された。
- 医療をテーマにした小説でまとめる案に対して、小説や物語をテーマでわけるとかえって探しにくくなってしまうのではないかなという意見も出た。
- 与えられたテーマ書架を受け身で利用するだけでなく、自分の興味や関心に沿って必要な本を集められるようになるようなワークショップを図書館で行う提案もあり、開館後のプログラムづくりにもつながりが見いだせた。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>



E 班

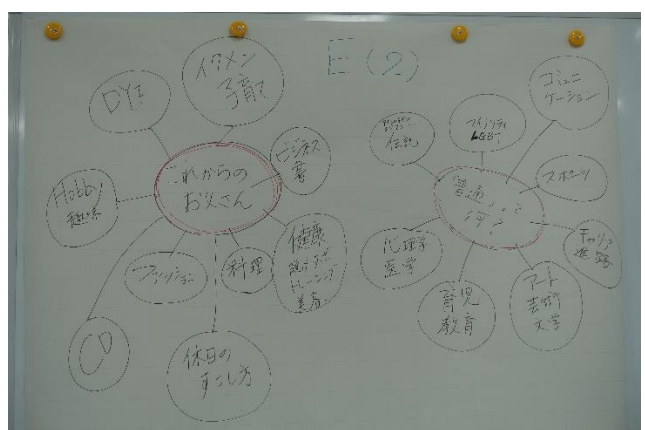
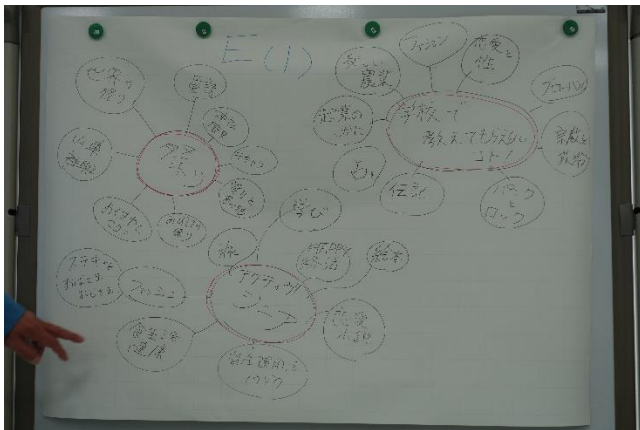
<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう！>

- 「こんなテーマ配架があったら今図書館に来ない人も来るのではないか」という議論ができたのが良かった。
- 多様な価値観、複合領域的なつながりを具体的に話し合うことができてよかった。
- 本主体ではなく、利用者主体の発想を体感できた。
- とにかくワクワクした。

<ワークショップの風景>



<模造紙と付箋>

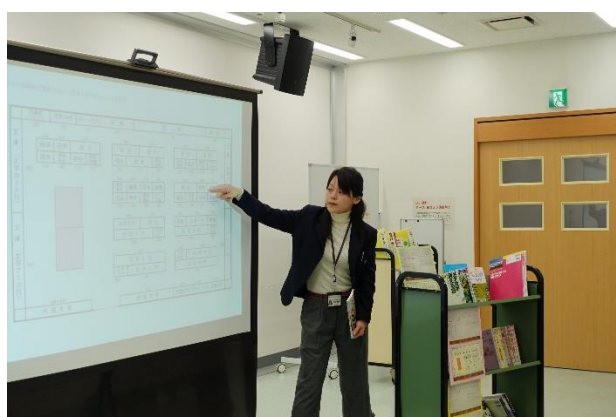


<瑞穂町図書館からの提案>

・古川司書



・西村司書



<集合写真>



以上